

(学校名) サンパウロ日本人学校

学校・周辺環境



【学校について】

児童生徒数: 小学部136名、中学部33名、計169名

職員数: 教員18名、非常勤講師3名、事務5名、用務員3名

今年で創立51年目を迎えます。現在の校舎は、1974年にサンパウロ中心部から20km離れた郊外の120000㎡の広大な敷地に建設されました。校内は、自然が豊かで四季折々の花や果樹に囲まれ、校舎はコテージ型で分散して配置されています。学期は日本と同じ4月から始まる3学期制です。南半球のために、7月から冬休み、12月から夏休みが始まります。



【授業の様子】

日本人学校は小中併置校で、学年15～30名の規模です。そのため、異年齢でも親しく、全校行事では、上級生がリーダーシップを発揮して、下級生に声かけ等優しく接しています。また、みんなが転校生なので、転校生も優しく受けて、直に親しくなっています。教育課程は日本と同じですが、総合的な学習の時間で英語活動や国際理解教育(ブラジル理解)に取り組んでいます。家庭の教育力が高いので、どの学年も学習意欲が高く、授業にも一生懸命に取り組みます。発表や話し合い活動も活発に行われます。各教室には、プロジェクターが常設され、授業でも活用されています。図書館も広くて日本語の蔵書も多く、またノートパソコンを使った調べ学習もよく行われています。小学部では、日本と同じように消防署やスーパーなどの社会見学も安全を配慮して行われています。



【主な行事】

1学期: 入学式、小学部遠足、中学部宿泊学習、運動会、校内マラソン大会

2学期: カンポリンボ祭(学習発表会)、小6修学旅行(ブラジル)、中2修学旅行(パンタナール)

3学期: 中学部職場体験、小学部おもてなし祭(日本語センターとの交流)、卒業式

本校の校訓の「自主自律」「一所懸命」の下、運動会やカンポリンボ祭では、児童生徒は活動を通して自主性を伸ばし、真摯に取り組んでいます。運動会は、ブラジルの国旗の色の黄色と緑色に分かれ、応援団を編成して応援合戦や競技で勝敗を争います。中3の応援団長の下、応援リーダーが小1の入学したての児童などをリードしながら、真剣に勝利を目指します。カンポリンボ祭は、移民をテーマに創作劇に取り組んだり、学校生活をコントでメドレーで演じたり、演奏を行ったりと、児童生徒が創造性を発揮しています。



【現地理解教育・国際交流】

現地校交流と日系日本語学校との交流が行われています。現地校交流では、近くの私立学校のコンコルジア校と全学年相互訪問をしてレクや双方の文化紹介で交流を行います。小1～3は、私立学校のサンタクルス校と音楽交流が続いています。小6は修学旅行でブラジリアの現地校のダビンチ校で少人数に分かれて授業体験をします。日系日本語学校は、小4が大志万学院という日系現地校、小5がアチパイア日本語学校と、中学部がイビウーナ日本語学校と交流活動を続けています。また、本校から300kmほど離れたグアタバラという日本移民の集住地の日本語学校と相互にホームステイで交流を続けています。日系社会との交流をしっかりとつないでいくために、移民の日の法要などに参加者を募って参加したり、運動会に日系の太鼓演奏者を招いて盆踊りを行ったりしています。

生活環境



【住居】

本校のスクールバスが運行している地区は、サンパウロのメインストリートのパウリスタ大通りに近い比較的治安のよい特定の地区だけです。そこが日本人の駐在員の集住地で、教員もここに住んでいます。マンションはプレジオと呼ばれ、警備員が常駐して、安全は確保されています。治安はよい方でも、時に拳銃強盗が発生することがあります。金銭目的ですので、いざというときに財布をすぐに渡せるようにすることも大切です。インターネットはスピードは少し遅いですが、日本とスカイプ等で気軽にやり取りできます。インターネットを活用して日本のテレビを見ている方もいます。ブラジルではトイレではトイレペーパーは流せませんのでご注意ください。慣れれば気にならないものです。コンセントの電圧はサンパウロは110Wです。パソコン等は大丈夫ですが、炊飯器などは変圧器が必要です。コンセントの形状はC型が多いですが、変換プラグが電気屋さんにも並んでいます。



【周辺のお店・病院等】

都心ですので、スーパーや専門店もあり、品ぞろえも豊富です。サンパウロには日系の方が特に多く、日本人が街を歩いても道を聞かれることが普通にあります。食料品は、お米を始め、野菜もダイコンや白菜、ホウレン草、果物では柿なども手に入ります。新鮮な野菜は、フェイラと呼ばれる市が曜日を決めて路上でお店を出します。また、加工品では味噌や豆腐、醤油なども、日系のスーパーで購入できます。そのため、教員を始め日本人は、家では日本でいるときと同じようにご飯とみそ汁といった食生活を送っています。外食でも寿司屋がありますが、創作寿司のような店も多いです。最近ではラーメン屋さんが増えています。病院は、日系の個人病院では日本語での対応も可能です。



【物価・休日・現地独自の文化等について】

物価はブラジルの通貨(レアル)のレート次第です。現在は1ヘイス=約30円とレアル安なので、スーパーでの日常品の価格は大差はありません。肉と果物はとても安いです。牛肉はフィレやロースでも100gが100円台です。マンゴも1個200円しません。反対に居住地域が都心のために外食は日本より割高です。町中のパールはそれほどでもありませんが、レストランはまとまったお金がかかります。ブラジルの宗教はカトリックが多く、そのため日曜日の午前中はお店の多くは閉まら、ショッピングセンターも日曜日は午後から開きます。ブラジルの方は、フレンドリーな方が多く、ポルトガル語が分からなくても丁寧に対応してくれます。また、子どもをととても可愛がったり、電車で高齢者に席を譲るのが当たり前に行われています。一方で、自分に責任がかかることを認めないのが一般的で、そのために学歴のない方でも雄弁に否定しようとしています。

応募者へのメッセージ

校長より

本校の教育目標は、「豊かな人間史、確かな学力、たくましい体を持ち、国際社会で信頼と尊敬を得る人間の育成」です。併せて、校訓として「自主自律」「一所懸命」で児童生徒が取り組む姿勢を明示しています。教員の指導方針では、「一人一人を見つめ、たくましさを求め、豊かな心を育む」のもと、一人一人を見つめていますか、たくましさを求めていますか、豊かな心を育てていますかと教育活動を評価しながら取り組んでいます。そのため、日本以上に日本の学校文化を大切にしながら、基本的な生活習慣や学習規律の指導の積み上げを行い、児童生徒が授業や行事に一生懸命に取り組むことを支援しながら、一人一人の育ちにこだわっています。在外日本人学校は小規模で各自の役割も多岐にわたりますが、その分節目節目の感動も大きいです。その中で、教師としての力量形成を支援します。

学校採用教員より

派遣の先生方から、様々なことを学ばせていただきました。仕事の段取り、教材研究、教員としての責任感、信頼関係の築き方、子ども達への情熱、人生観。魅力的な先生方とお仕事をさせていただき、本当に感謝しています。海外に住むご家庭の児童を預かるということは、期待に応える覚悟や信頼を得るための努力が必要です。派遣の先生方と同じ土俵に立てるように、という気持ちで仕事をしてきました。時には厳しさを感じることもありますが、相談に親身につけてくださる先生、励ましてくださる先生がいます。成長させていただき、全てが今の私の力になっています。